

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
交通英語B	英語で説明しよう：応用編	大槻 忠史	2年次後期
講義の目的	将来、鉄道をはじめとした交通の現場で活躍するための英語の応用・実践力をつけることを目的とする。		
到達目標	前期で学んだ基礎的な表現を用いつつ、(1)相手の立場に立った英語での対応・表現ができるようになること、(2)状況に応じて過不足なく正確に英語で対応・表現ができるようになること。		
内容講義	前期の応用・実践編として、諸外国の鉄道を中心とする交通機関について、日本との違いを意識しつつ考察することで、どのような案内をすればより相手に分かりやすいのかを議論し、学んでいく。		
講義スケジュール	第1講	イントロダクション	
	第2講	交通英語の基礎表現の確認と補足 (1) 遅延や事故時の対応	
	第3講	交通英語の基礎表現の確認と補足 (2) 交通系 IC カードと案内	
	第4講	交通英語の基礎表現の確認と補足 (3) 鉄道以外(バスや飛行機など)	
	第5講	実践力をつけるために：外国人利用者の目線を考える	
	第6講	実践演習 (1) 日本の交通案内の英語表記を考察する：大都市圏	
	第7講	実践演習 (2) 日本の交通案内の英語表記を考察する：地方部	
	第8講	実践演習 (3) 日本の交通英語について特徴や問題点を議論する	
	第9講	実践演習 (4) 海外の交通案内の英語表記：北米を中心に	
	第10講	実践演習 (5) 海外の交通案内の英語表記：ヨーロッパを中心に	
	第11講	実践演習 (6) 海外の交通案内の英語表記：アジア、オセアニア	
	第12講	実践演習 (7) 海外の交通案内の英語表記：ロシア	
	第13講	実践演習 (8) 海外の交通英語について特徴や問題点を議論する	
	第14講	実践演習 (9) 相手の立場に立ったより分かりやすい案内を議論する	
	第15講	まとめと想定演習 想定スキットを演じ、議論する	
方法指導	講義中に講義内容を実際に使う機会を設けることで、身につくようにする。後期では、特に web や映像資料を用いて日本と海外との交通事情を比較・考察することを通して、より実践的な英語力を習得することに重点を置く。		
授業外学習	授業前に指定箇所を予習した後、分からない単語を調べ、文法事項について忘れた箇所がある場合は復習しておくこと。また事後学習には、文法や表現、語彙を意識しながら毎日少しずつ時間をとって繰り返し声に出して読むこと、そして、それらが実際の交通機関でどのように用いられているのかを考察することで、定着する。必要に応じて、応用課題を使用する。		
成績評価方法	本試験(筆記試験)50%、平常点(グループワーク)25%、平常点(小テスト)25%。		
テキスト	井口紀子『1から出直し書き込み式英会話 BOOK』成美堂出版、2008年 その他、プリント教材や資料などを配布する。		
書籍参考	特に指定しない。授業内で、適宜紹介する。		
事項特記	授業に集中するのはもちろんのこと、学んだ表現を自ら積極的に反復練習し、間違いを恐れずに実際に用いるように心がけて欲しい。また、普段から、「このような場面ではどのように英語で言えばいいだろうか？」と考え、実際に英語で表現してみたい。		